

阿久根、鹿児島、枕崎では8月の降水量が統計開始以降、最も多くなりました。

○九州南部の気象官署及び特別地域気象観測所の3地点で8月の月降水量が統計開始以降、最も多くなりました。

- 九州南部の気象官署及び特別地域気象観測所の3地点（阿久根、鹿児島、枕崎）では、8月の月降水量が統計開始以降、最も多くなりました。

表1 気象官署及び特別地域気象観測所の8月の月降水量

順位	地点名	値(mm)	平年値(mm)	平年比(%)	これまでの1位(mm) (西暦年)	統計開始年
1	阿久根	951.5	222.8	427	665.0 (1993年)	1939年
1	鹿児島	804.0	224.3	358	758.9 (1905年)	1883年
1	枕崎	920.5	181.0	509	640.5 (1999年)	1923年

統計期間の50年以上ある9地点（宮崎、延岡、都城、油津、阿久根、鹿児島、枕崎、種子島、屋久島）を対象。

2. 記録的多雨になった要因

偏西風が日本の西で南に蛇行したため、太平洋高気圧の本州付近への張り出しが弱く、太平洋高気圧の周辺を回る暖かく湿った気流とオホーツク海高気圧からの冷たく湿った気流が西日本でぶつかったことにより前線が顕在化し、活動が活発となったと考えられます（別紙参照）。

問合せ先：鹿児島地方気象台 季節予報担当（茶屋）
電話 099-250-9912

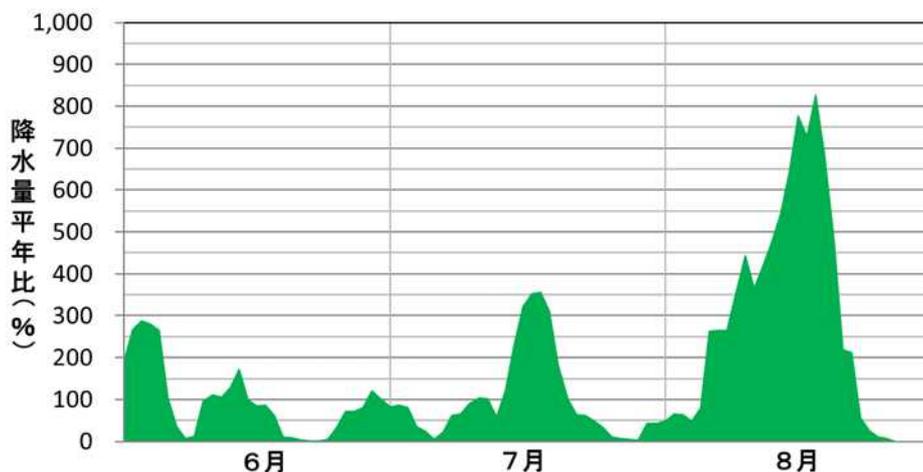


図1 九州南部の地域平均降水量平年比の時系列(5日移動平均値)
(2021年6月～2021年8月)

地域平均降水量平年比は、いつもの年(平年)と比べてどのくらい多い・少ないかを地域全体でみるもので、九州南部は9地点(宮崎、延岡、都城、油津、阿久根、鹿児島、枕崎、種子島、屋久島)における降水量の平年比を平均して算出しています。

多雨となった要因

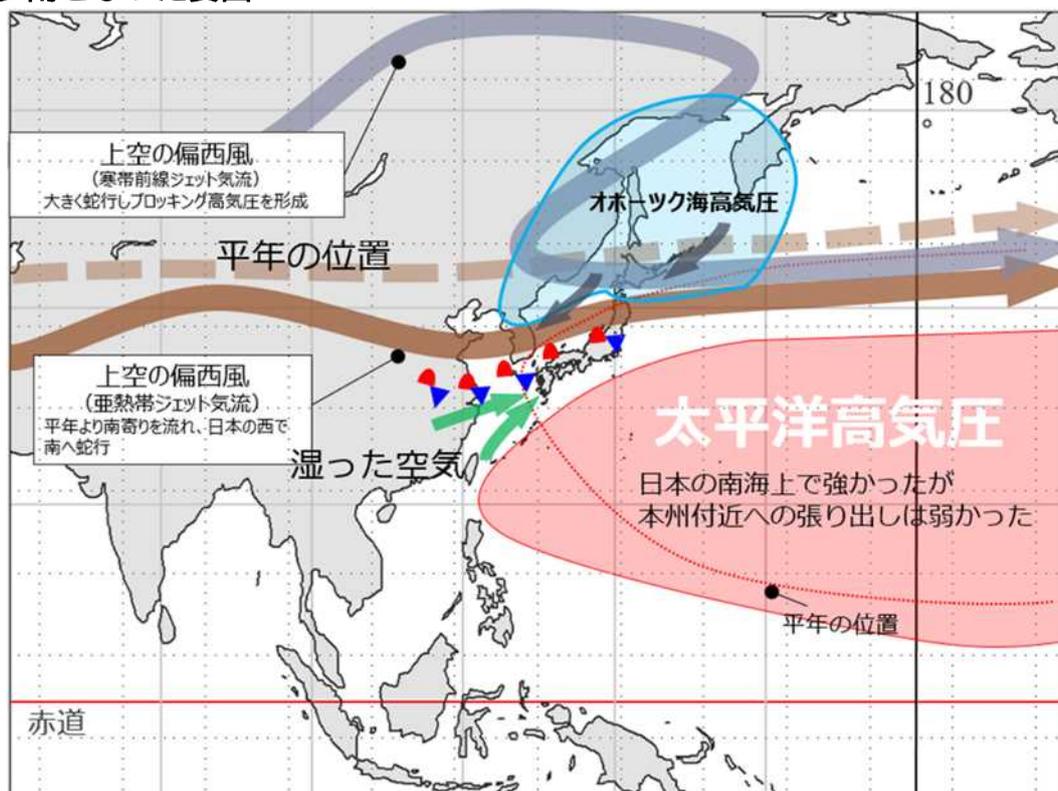


図2 2021年8月の平均的な大気の流れの模式図

- 上空を流れる偏西風は平年より南寄りを流れ、九州の西で南へ蛇行しました。
- 太平洋高気圧は、日本の南海上では強かったですが、西日本付近への張り出しが弱かったことから、西日本付近に前線が停滞しました。
- 太平洋高気圧の縁をまわる暖かく湿った空気とオホーツク海からの冷たく湿った空気が西日本付近でぶつかり、前線が顕在化し活動が活発化しました。
- 前線帯に沿って、中国大陸から流れ込む湿った空気と太平洋高気圧の縁辺を流れる南からの湿った空気が、西日本付近で合流しやすい状況が続いたからと考えられます。